

付着生物ラーバ情報

出荷時のユウレイボヤの付着量は多い見込み

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは見られていません (図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは奥内沖で462.5個体/m³、久栗坂沖で378.9個体/m³、野辺地沖で194.5個体/m³、川内沖で464.1個体/m³見られました (図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)、アミクサ(海藻、通称クサ)

オベリア類のクラゲとアミクサの小枝は見られていません。

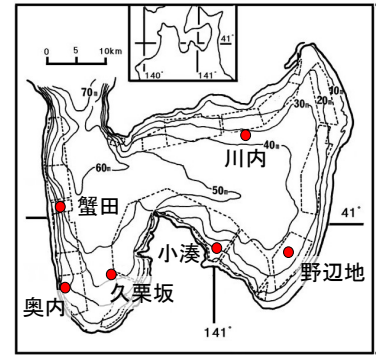


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	単位: 個体/m ³	
						オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
奥内沖	R3.2.15	0.0	0.8	462.5	212.5	0.0	0.0
久栗坂沖	R3.2.12	0.0	0.0	378.9	93.3	0.0	0.0
野辺地沖	R3.2.6	0.0	0.0	194.5	110.2	0.0	0.0
川内沖	R3.2.12	0.0	0.0	464.1	246.1	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は2~8℃台と平年並み~やや低めになっています。

(1) ユウレイボヤ

例年のラーバ出現ピークは過ぎています。

これまでの調査で、冬季の平均水温が8℃以上もしくはラーバ累積出現数が5個体/m³以下であれば春の付着量が少ないことが分かっています (図4)。

冬季水温の平年値は青森ブイで8.1℃、東湾ブイで6.1℃ですが、水温は平年並み~やや低めに推移しており、**平均水温は8℃を下回る**ことが予測されています。また、奥内沖の**累積ラーバ数も6.7個体/m³と多くな**っており、一部のパールネットに秋生まれのユウレイボヤが大量付着していることから、**今春の出荷時の付着量は多い**ことが予測されます。

(2) キヌマトイガイ

ラーバ出現数が増加してきたことから、今後、**籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加**するものと思われます。

(3) アミクサ、オベリア類

これから春にかけてアミクサの小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

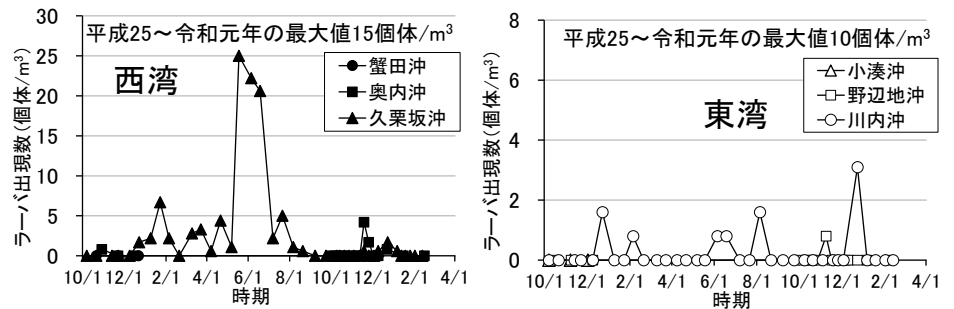


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和元年10月~令和3年2月)

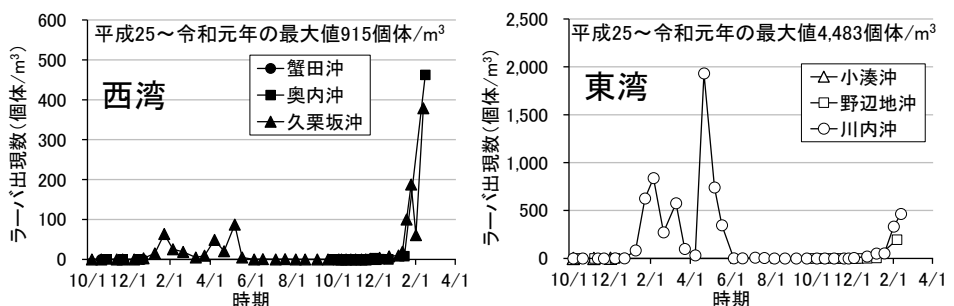


図3 キヌマトイガイ出現数の推移 (令和元年10月~令和3年2月)

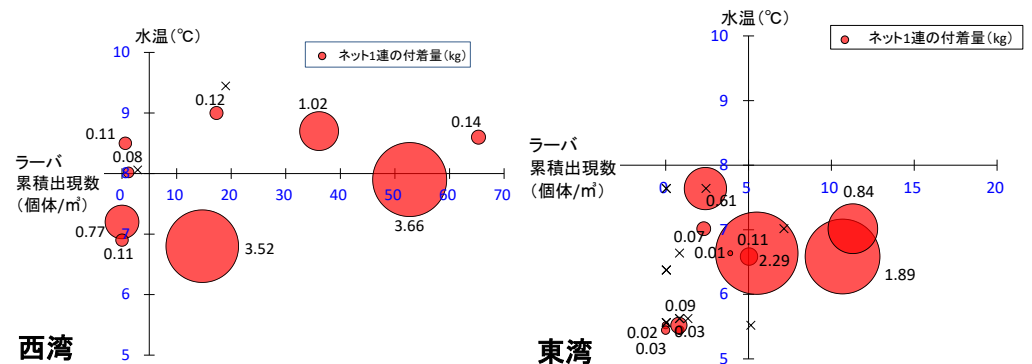


図4 平成16年~令和元年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの冬季の平均水温と翌春のパールネット1連の付着量の関係 (○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)

